

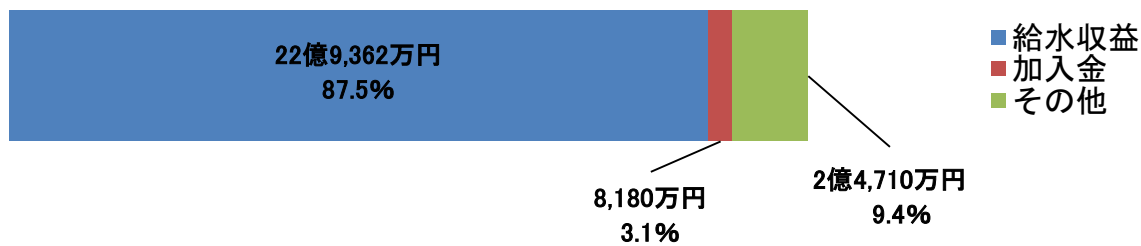
令和5年度決算

(1) 決算の概要（特徴的な事項を記載しています。）

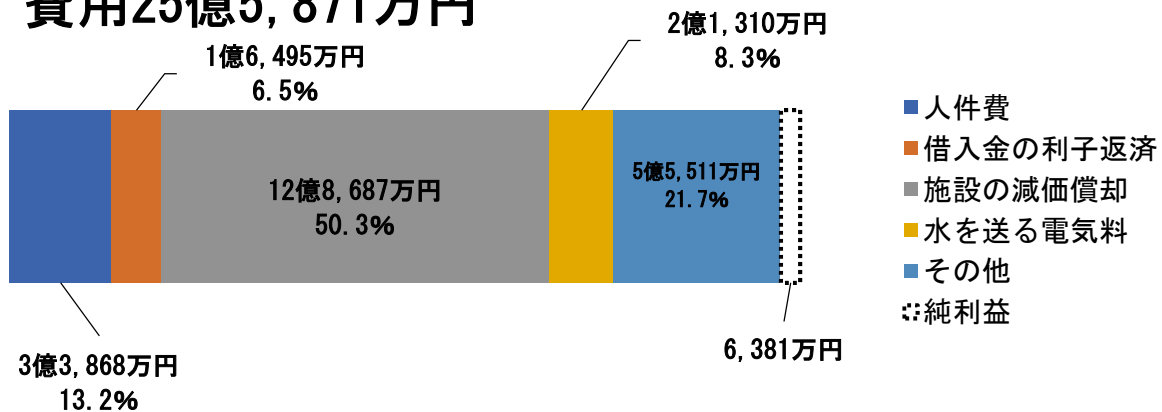
収益的収支（税抜）

収益的収支とは、水道事業における通常の経営活動にかかる収益と費用です。

収益26億2,252万円



費用25億5,871万円



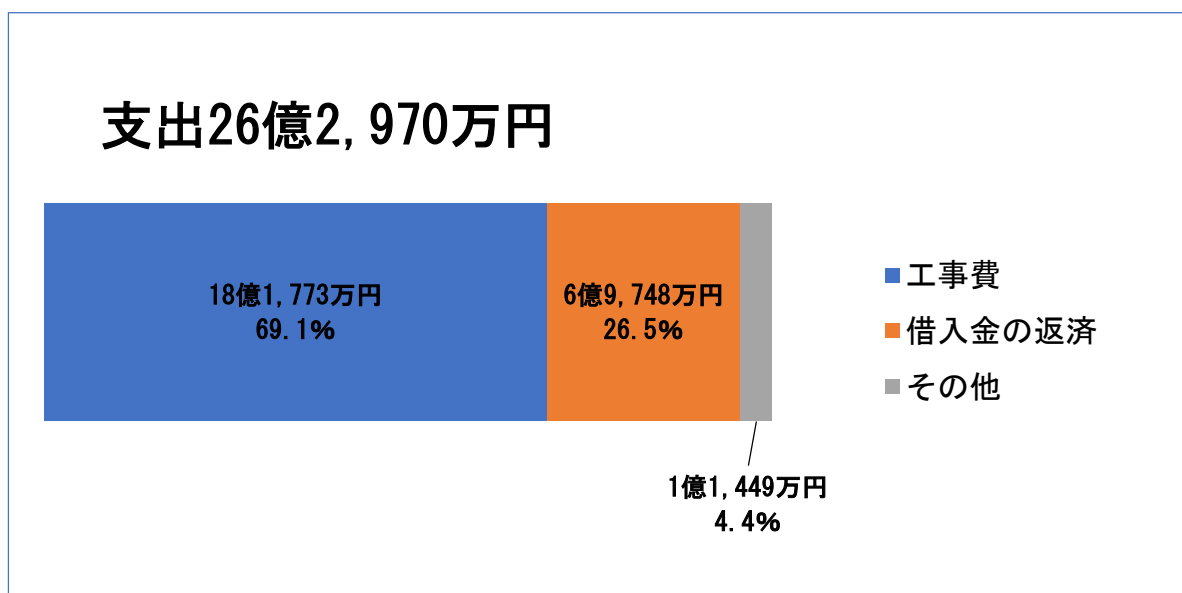
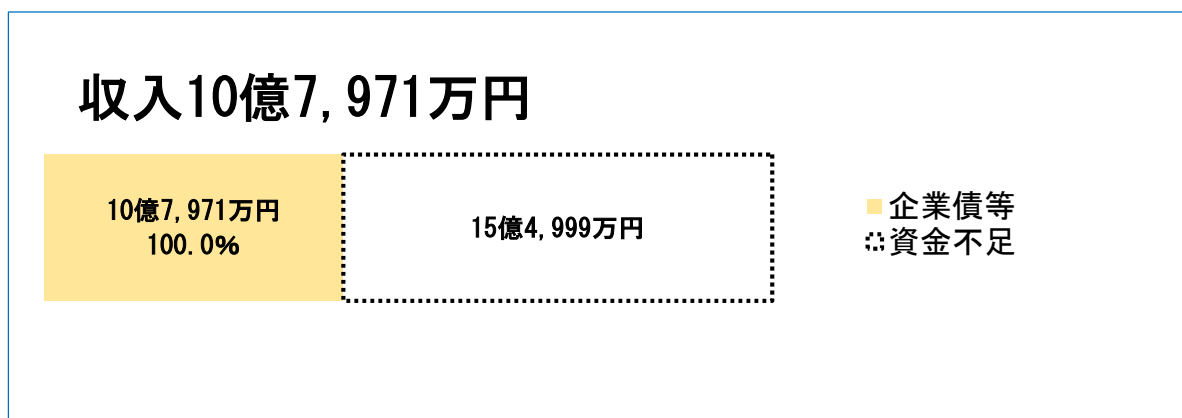
※ 費用のうち、「その他」は、水道施設（水道本管、配水池、水道設備など）を維持管理する経費、水道水を消毒するための薬品購入費、水道本管の漏水時の緊急工事費、材料費など、安心・安全な水を提供するための経常的に支出する経費です。

< 収益的収支の概要 >

- 給水収益は、一般家庭以外の水量が概ね横倍に推移しましたが、一般家庭については人口減少等により、引き続き水量が減少したため、全体では対前年度比 約 3,800 万円（-1.6%）減少しました。
- 電気料金（動力費）は、国の激変緩和措置等により、対前年度比 約 5,300 万円（-19.8%）減少となりました。
- これらにより、純利益は、約 6,400 万円の黒字を計上しましたが、対前年度比では約 4,600 万円（-41.9%）減少しました。

資本的収支（税込）

資本的収支とは、老朽化が進む水道施設の整備のほか、企業債の借入や、償還にかかる収入と支出です。



※ 資金不足額は、内部留保資金で補てんしました。

「内部留保資金」（「補てん財源」とも呼ばれます）とは、減価償却費など実際に現金の支出を伴わない費用などの「損益勘定留保資金」や、当年度純利益から積立てられた積立金などの利益剰余金で企業内部に留保されている資金のことです。

公営企業会計において、資本的収支不足額に内部留保資金を充当することとなっています。

内部留保資金が不足してしまうと、水道施設の更新、耐震化ができなくなります。

< 資本的収支の概要 >

- ・ 建設改良工事は、約18億1,773万円で、事業を精査しつつ計画的に整備を進め、水道事業ビジョンに示す目標は概ね達成できました。
- ・ 工事の財源となる企業債は、借入額を抑制しましたが、償還額に比べると多く、企業債残高は、前年対比で約3億300万円増となりました。
- ・ 内部留保資金は減少し、約22億6,500万円となりました。